キノコとシロシスクとトカルチュク

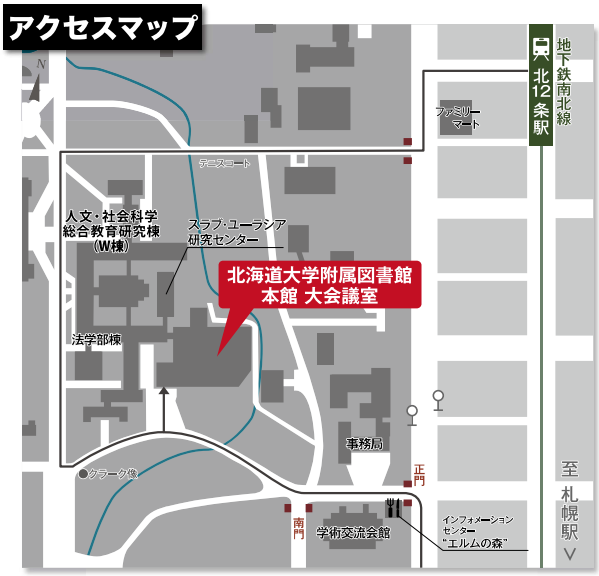
ノーベル賞作家オルガ・トカルチュクの翻訳より

報告者：小椋 彩（おぐらひかる）

東洋大学文学部日本文学文化学科助教。北海道大学文学部卒業。
東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士（文学）。

大学院在学中、東京大学との大学間協定によりワルシャワ大学東洋学研究所日本学科講師として赴任。専門はロシア文学、ポーランド文学、比較文学。翻訳書にトカルチュク『昼の家、夜の家』『逃亡派』（以上、白水社）、『プラヴィエクとそのほかの時代』（松籟社）ほか

アクセスマップ



※駐車場はありません。公共交通機関でお越し下さい。

2018年のノーベル文学賞受賞者、ポーランドの作家オルガ・トカルチュク。「キノコ」や「環境」をキーワードに邦訳された作品の楽しみ方をご提案するほか、翻訳の工夫や、作家の最新作（未訳）などについてお話します。

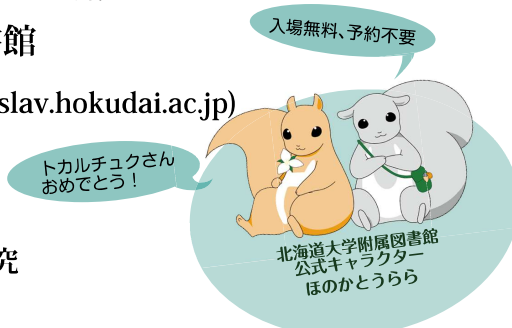
日時：2019年 12月 21日（土） 14:00〜15:30

会場：北海道大学附属図書館本館大会議室
（北海道札幌市北区北８条西５丁目）

主催：SRC 北海道大学 スラブ・ユーラシア研究センター

共催：北海道大学附属図書館

連絡先：野町素己 (mnomachi@slav.hokudai.ac.jp)



科研費 KAKENHI 基盤研究（C） 18K00460
亡命ポーランドと亡命ロシアにおける「場所」に関する比較文化的研究